種別	類別	S. P. LNo.	No.	計測値（長径×最大巾×器厚）cm	重量（g）	石質	出土区・層位
石槍	1 大形	S. P. L 1	1	7.30×3.00×1.10	20	珪質頁岩	Tr 2 Ⅲ中 W190西 N150北
			2	10.10×3.90×2.45	86	〃	Tr 2 貝層の上 Ⅲ
			3	6.60×4.50×1.30半欠	34	〃	Tr 1 Ⅰ下 W207 N104
			4	6.30×3.20×1.20半欠	29	〃	Tr 1 Ⅱa上 W310 S10
			5	5.60×3.40×1.10半欠	30	〃	Tr 2 Ⅰ下
			6	5.20×3.90×1.10残欠	23	〃	Tr 2 Ⅲ上
	2 不定形	S. P. L 2	7	5.70×4.40×1.80	29	〃	Tr 2－3 境界 Ⅲ N45
			8	7.00×5.30×1.70残欠	59	〃	Tr 2 Ⅲ下
			9	4.70×4.40×1.40	28	〃	Tr 1 Ⅰ W55 S20
			10	4.80×4.50×1.35残欠	30	流紋岩	Tr 2 Ⅱ中
			11	4.40×2.30×0. 9	8	珪質頁岩	Tr 1 Ⅱ中 第1号土壙内
			12	7.60×3.60×1.20一部欠	42	〃	Tr 1 Ⅱa下
石斧		S. P. L 1	1	5.00×2.60×0.90半欠	20	千枚岩	Tr 2 Ⅲ上 E195東 N65北
クボミ石		S. P. L 1	1	10.90×6.15×3.90	288	頁岩	Tr 2 Ⅲ中
穿孔のある自然石		S. P. L 1	1	4.80×3.70×1.30	27	珪質頁岩	Tr 2 Ⅱa下 E60 N40
半円状打製扁平石器		S. P. L 2	1	10.20×8.40×2.30半欠	313	安山岩	Tr 2 Ⅱb下 W35 S60
〃			2	12.20×5.50×1.60	183	珪質頁岩	Tr 2 Ⅲ
石弾		S. P. L 2	1	5.80×5.60×4.45	194	泥岩	Tr 2 Ⅰ N25 E35
石皿		S. P. L 2	1	13.80×13.40×3.90残欠	865	火山礫凝灰岩	
			2	12.00×8.40×4.90	675	流紋岩	Tr 2 貝層直上
タタキ石		S. P. L 3	1	6.40×5.20×2.85	140	珪質頁岩	Tr 2 Ⅰ E168 N35
			2	11.40×9.50×3.10	493	花崗閃緑岩	Tr 1 Ⅱa中
			3	9.40×7.30×6.10	580	頁岩	Tr 2 Ⅰ N50 E28
			4	16.20×8.90×5.00	1140	安山岩	Tr 1 Ⅱ上

種別	類別	S. P. LNo.	No.	計測値（長径×最大巾×器厚）cm	重量（g）	石質	出土区・層位
石錘	1 打欠きが長軸にあるもの	S. P. L 3	1	9.90×9.90×2.10	320	安山岩	Tr 1 Ⅱb E140東 N40北
			2	7.50×5.50×1.50	73	頁岩	Tr 2 Ⅲ中 N133北 E32東
			3	15.3×9.00×3.90	838	〃	Tr 2 貝層上
	2 短軸に打欠きのあるもの		4	8.10×5.80×2.15	132	流紋岩	Tr 2 Ⅲ
			5	12.50×8.00×4.20	600	石錘？自然石？	Tr 2 Ⅰ下
鉄滓		S. P. L 3	1	7.70×6.20×4.70	204	鉄滓	Tr 1 Ⅰ下
その他自然石		S. P. L 3	1	3.80×2.40×2.00	18	赤鉄鉱	Tr 1 Ⅱ中
			2	6.30×6.20×3.40	117	玉髄	Tr 1 Ⅰ下
			3	6.20×4.40×3.90	78	玉髄	Tr 1 Ⅰ下

青森県・市浦村「オセドウ貝塚」出土、骨類調査表〔表2〕

1990・05・01～08　　調査者　金　子　浩　昌

No.	出土区 層	記　　録	出土状況
1	tr2 Ⅱ層中	(焼骨) • 基節骨と思われる骨の近位部断片、イヌ科のものである。	• tr2の南西壁下で検出した貝をフルイにかけて検出。
2	tr1 Ⅲ層下	(マダイ) • 尾椎骨―1 (椎体長16、77、同径14、85)	• tr1のⅢ層下、南西下を発掘中に検出。
3	tr2 Ⅲ層下	・(シカ)の中手or中足骨を素材にして作られたヘアーピン。骨の関節骨端が見える。	• tr2のⅢ層下、貝層上面で発掘中に検出。
4	tr2 貝　層	(カモ類)―右脛骨	• tr2の西壁下、貝層中位より検出。 (伴出-円下d1式土器)
5	tr2 貝　層	(タイ科)―腹椎、尾椎体―各1 (ウグイ)―尾椎体2 (やや大きいウグイ) (スズキ)―腹椎―2。(タイ科の椎体もある)	• tr2の北側中央部、貝層中位の貝をフルイにかけて検出。
6	tr2 貝　層	(クロダイ)の諸骨 • 右前頭部、右口蓋骨、左右歯骨、左右方骨―各1、左角舌骨、頭骨～椎体断片	• 上に同じ。
7	tr2 貝　層	(魚骨)断片―11。 • 部位等は細品のため判別不能。	• tr2の南西壁下、貝層の下位より検出。 (フルイにかけて)
8	tr2 貝　層	(魚骨)の断片―鰭等の破片を含むが、部位は不明。1点のみウグイの咽頭骨断片がある。他に20片。	• tr2の南壁下やや西・よりの地点で検出。フルイにて発見。
9	tr2 貝　層	(タイ科)―鰭棘3 (近位端を残す) • その他15点余りは、その断片。	• tr2やや北より貝層から検出。

12	ｔｒ２ 貝　層	•（ヤマトシジミ）であるが、貝塚出土のものとしては、小形、早前期の貝塚には、このような形のものがある。	•ｔｒ２の貝層より採集したヤマトシジミのサンプルである。
13	ｔｒ２ 貝層中位	（スズキ）―主上顎骨片（左） •他の１点も魚骨、さらに石片２。	•ｔｒ２の貝層中位出土、トレンチの中央西よりふるいにて検出。
備 考	☆ｎｏ10、11は欠番、他の遺跡出土のものである。 ☆全体所見―小型のヤマトシジミからなっていた。魚骨は、マダイ、クロダイなどがあったが、おそらくクロダイが主になるだろう。 今回も殆ど魚骨が主であった。 ☆獣骨は、焼けた中型獣のものである。これは、焼けている上に、更に破損しているので種名等は、明らかになしいないのが、残念である。 しかし、注目してよい資料である。 ☆骨のヘアピンは、前期の例として興味深い、いかにも素朴な造りである。これも良い資料である。（以上、原文のまま）		

◆以上の調査結果を戴いた。ここに記して感謝申し上げる次第である。

（Ⅲ）出土遺物

a）土器・土製品、b）石器、c）貝類、d）骨類、e）須恵器、土師器以上のa～eに分けられる遺物が出土した。以下a～eの順に簡単に述べる。

a）土器、土製品（ＸＰＬ１～６、ＡＰＬ１～12）

出土した土器は、土器型式で示すと、次の通りである。

円筒下層ｄ１式、円筒上層ａ式、円筒上層ｂ式、円筒上層ｃ式、円筒上層ｄ式、大木系土器、更に十腰内１式土器が出土した。また、僅かではあるが、土師器・須恵器の出土もあり、更に、北海道の影響を受けた擦文土器も出土している。これらの出土した土器について、以下簡単に述べることにする。

◆「前期の土器」―（6000～5000年前）

前期の土器は、次の各型式の土器が出土した。（１）円筒下層ｄ１式、（２）円筒下層ｄ２式の２型式の土器が出土した。

☆このうち、ＸＰＬ１と、ＸＰＬ２としたものは、円筒下層ｄ１式土器である。

また、ＸＰＬ３とした土器は、円筒下層ｄ２式土器である。

◆「中期の土器」―ａ類（5000～4000年前）

中期の土器は、次の型式のものが出土している。（１）円筒上層a式土器（２）円筒上層ｂ式土器、（３）円筒上層ｃ式土器、（４）円筒上層ｄ式土器等の円筒系土器が出土した。

☆このうち、ＸＰＬ４とした土器は、円筒上層ａ式土器で、ＸＰＬ５に示した土器は、円筒上層ｃ式土器である。

◆「中期の土器」―ｂ類（中期末）

☆中期の土器ｂ類としたものは、大木系の土器である。大木式土器と言うのは、東北地方の南部で一時期栄えた土器群で、縄文時代の前期から中期へかけて、大木式土器文化圏を形成していたものと言われている土器群である。この大木式土器文化が北上して、青森県に入り、円筒土器に影響を与えて化成した土器が、大木系土器と呼ばれているものである。なお、個々の土器については、ＸＰＬ、ＡＰＬに示してあるので省

略する。

「後期の土器」（4000～3000）

☆後期の土器は、１型式だけ出土した。即ち、十腰内１式土器である。この土器群についても、ＡＰＬに表示してあるので省略する。

◆「擦文土器」（11世紀）

☆この擦文土器とした土器群は、北海道系の土器群で、青森県は、地理的に見ても近い位置にあるため、津軽半島の各地で出土している土器群である。今回の発掘では、僅か２～３片の出土であるが、昨年の第一次発掘調査では、出土しているので、紛れ込んだものと考えられるところである。（ＡＰＬ１―22）

◆「土製品」―（ＡＰＬ12―６、７～９）

☆土製品としたものは、（ＡＰＬ12―６、７～９）に示した通り、円盤状土製品が１個、土錘が３個の出土である。前者は、土器片（前期の土器）を利用したものである。土錘は、先に述べた通り、第一次発掘調査で、大量に出土しているので、やはり紛れ込んだものと考えられる。

b）石器（表１、ＳＰＬ１～３）

出土した石器は、次の器種にわけられる。石鏃、削器、掻器、石槍、石斧、クボミ石、穿孔のある自然石、半円状扁平打製石器、石弾、石皿、タタキ石、石錘、(鉄滓、その他) 等である。これらのもののうち、鉄滓や自然石を除く、他の石器は、前期～中期のものと認められる。なお、(表１）には、計測値、出土層、石質等を示しているので省略する。

c）貝類（ＫＰＬ１）→すべてヤマトシジミである。

考古学史上名高いオセドウ貝塚の貝層の一部を確認した。写２～４に示した通り、貝層は、層をなしていた。資料として、45×45×58cmの肥料袋に約40袋を採集したが、そのうち調査したものは15袋で、残りは未調査である。したがって貝の中の骨類は中間報告であることを承知されたい。なお、出土した貝類は、貝塚のものとし

ては小形のものである。

d）骨類（ｂＰＬ１～４）

出土した骨類については、早稲田大学、金子浩昌氏に調査を依頼して、その結果を戴いた、(表２）は、その調査結果である。記して感謝申し上げる次第である。

e）須恵器、土師器（ＡＰＬ－２、３）

出土したものは、僅か２点のみである。 第１次調査では、多く出土しているので、おそらく、紛れ込んだものと考えられる。

〔Ⅳ〕考　　察

☆考古学史上有名な、「オセドウ貝塚」の一角を発掘調査する機会を与えられて喜びと共に浅学非才の小生を恐れている。以下第１次、第二次の順に簡単な考察を加えてみたい。

☆オセドウ貝塚が所在する「神明宮」の境内は、一見して郭を想定させる地形であるが、これに近接して「福島城址」や「山王坊」、やや離れて「唐川城址」も所在するが、これらの遺跡との関係は目下不明である。

◆第１次発掘調査―第１次の調査では第４・５図に示した、Ａ・Ｂのグリットを発掘したことは既に述べたが、僅か５×６ｍ（Ｂ）グリットの発掘で、住居址を４棟検出している。これらの住居址は、僅かに壁面を認めるのみで、いずれも未完掘であるが、そのプランは、方形、または、長方形のものと認められる。（Ａグリットで１棟）

- 出土遺物―これらのＡ・Ｂグリットの出土遺物は、（表１）に示したように、土師器、擦文土器、須恵器、支脚、羽口、珠洲焼、越前焼、青磁、鉄製品等である。
- 出土遺物と出土層を検討すると、表土を含む上層（Ⅰ・Ⅱ）からは、陶磁器・鉄製品が多く出土し、住居址の覆土、及び、床面からは、土師器の出土が主体をなしている。
- 以上のことから、検出した住居址の年代は、11世紀頃のものと考えられる。しかし、出土遺物を検討すると、先に述べたように、陶磁器の出土も認められ、土師器系土器も出土することから、この遺跡は、11～16世紀の幅で、捉えることが可能と推定される。
- 更に、「土錘」の出土が極めて多く出土したことである。この点については、先に述べた「オセドウ貝塚研究史」の中で、先学が述べられているように、この遺跡を造営した人々は、「漁労を中心とした生産活動をしていたもののようである」と述べられるが、筆者も同様に考えている。

◆第２次発掘調査―第２次発掘調査は、第２図に示したとおり、遺跡の南端国道３３９号から遺跡へ登る遊歩道の予定地に沿ってトレンチを設定したが、トレンチの地点は、西へ急傾斜する地形である。

- 貝塚は、これも先に述べたように、Ⅲ層下で検出した。ｔｒ１・ｔｒ２・ｔｒ３とも、

東壁のセクションには、貝層は無く、各ｔｒの西壁には貝層が所在した。このことから、発掘した地点は、オセドウ貝塚東端の一部と考えられる。

- 出土遺物―出土した遺物は（Ⅲ）―ａ～ｅ項で述べたとおりであるが、貝層内からは、円筒上層ａ式土器（貝層の上層）、及び円筒下層ｄ１式土器（貝層下層）が出土した。このことから、「オセドウ貝塚」は、この土器型式の時期に形成されたものと思われる。
- 出土遺物―出土した遺物については、既に述べたが、最初に層序と土器について述べる。
- Ⅰ層―（土師器・須恵器―３点）、Ⅱ層―（後期十腰内Ⅰ式・中期円筒上層ａ・ｃ式、大木系―８ｂ・９式比定土器）、Ⅲ層―円筒上層ａ式・大木９式比定土器・円筒下層ｂ２式）

  貝層―（上層―円筒上層ａ式、下層―円筒下層ｄ１式）、以上のように出土した。

☆なお、大正末～昭和初頭に発掘した土器は、有名な人骨と共に、東京大学から返還され、市浦村・歴史民族資料館に展示されているが、これらの土器と、第２次発掘調査で出土した土器の一部は、同一型式であることを念のため申し添えておく。

- その他の出土遺物―（１）石器については、特に特徴は認められない。前期・中期の石器としてはノーマルなものである。（２）出土した貝類については、貝塚出土のものとしては、小形であると、金子浩昌氏が指摘されているところである。なお、詳細については、（表２）に調査結果を示しているので省略する。

☆参考文献

１、円筒土器文化 村越　潔著（考古学選書10）雄山閣

２、原子遺跡（縄文時代前期土器の編年的研究）五所川原市教育委員会

３、その他―省略

〔オセドウ貝塚出土・土器〕

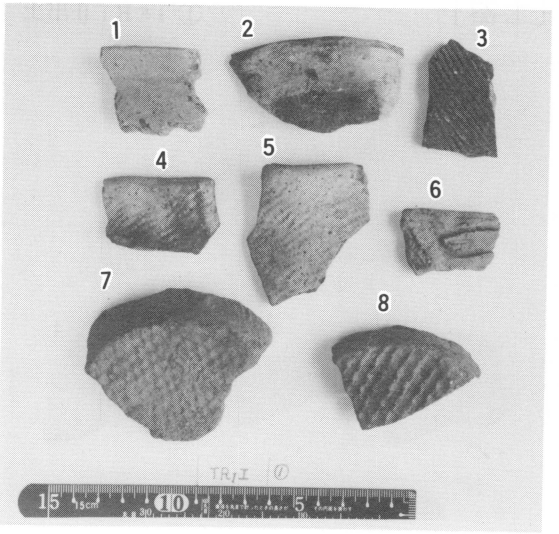
☆（1・2）→土師器

☆（3）　→須恵器

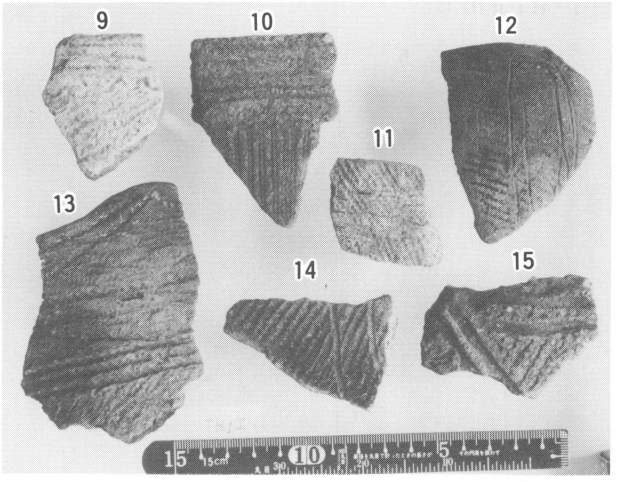
☆（4～8）→後期の土器

（※）
T・R₁＝トレンチ1の意
T・R₁Ⅰ＝トレンチ1のⅠ層出土の意である
（以下も同じ）

①T・R₁Ⅰ出土　　A・P・L₁



②T・R₁Ⅰ出土



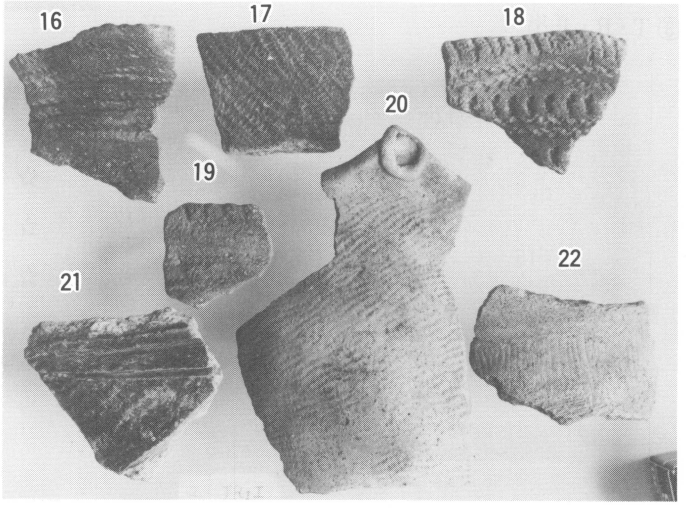
☆（9・10）→円筒下層d₁式

☆（13）　→円筒下層d₂式

☆（11）　→円筒上層式

☆（12・14・15）→（大木9式比定）

③T・R₁Ⅰ出土



☆（16・17・19）
→円筒上層a式土器

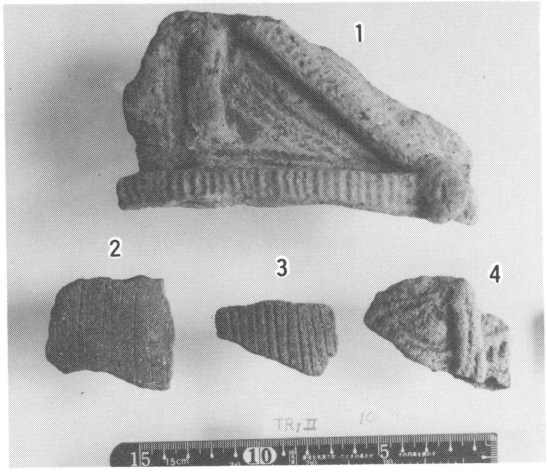
☆（18）　→円筒上層b式土器

☆（21）　→大木系土器

☆（20）→後期―十腰内Ⅰ式土器

☆（22）　→擦文土器

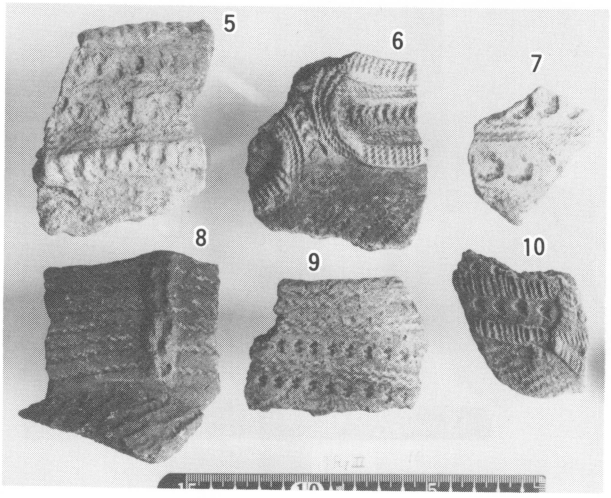
〔土器〕　　①T・R₁Ⅱ出土　　A・P・L₂



☆（1・4）→円筒上層a式土器

☆（2・3）→型式名不明

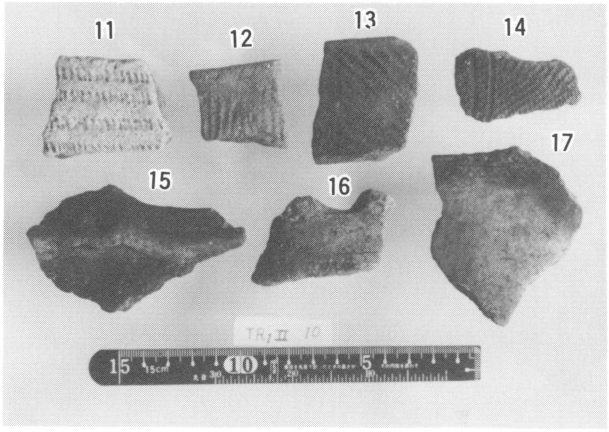
②T・R₁Ⅱ出土



☆（8）→円筒上層a式土器

☆（5・6・7・9・10）
→円筒上層b式土器

③T・R₁Ⅱ出土



☆（11・13）　→円筒上層a式土器

☆（14・15・17）→大木系土器

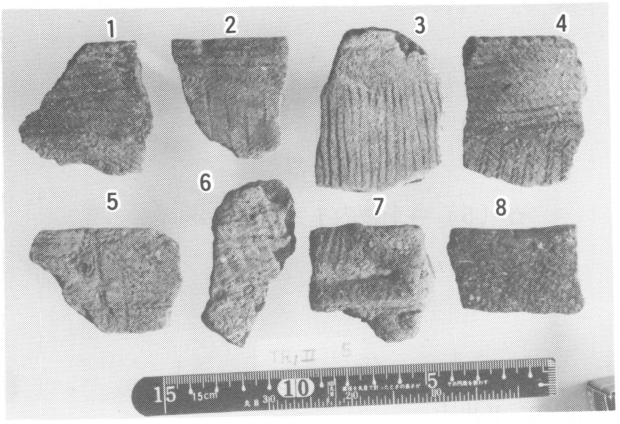
☆（16）　→後期？

〔土器〕

① T・R 1 Ⅱ出土

☆（1～6）→円筒下層 d 1 式土器

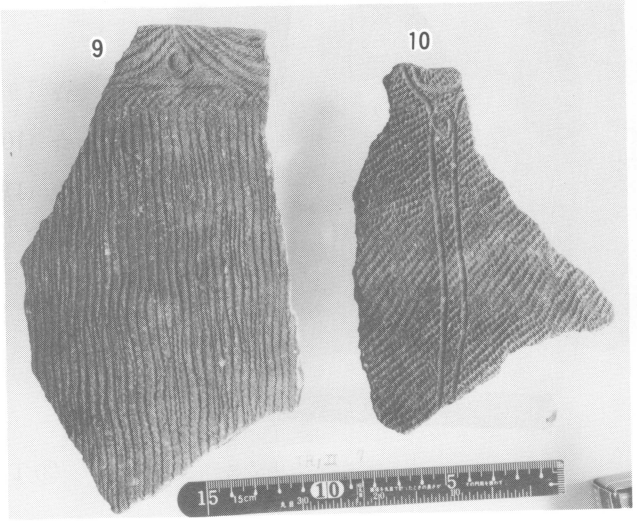
☆（7・8）→中期？型式名不明



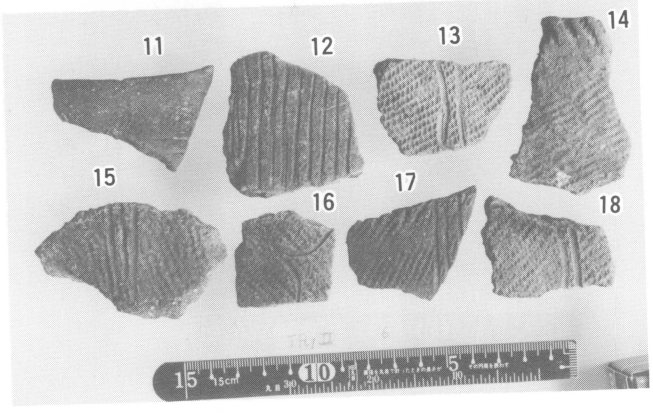
② T・R 1 Ⅱ出土

☆（9）→円筒下層 d 1 式土器

☆（10）→大木 8 b 式比定土器



③ T・R 1 Ⅱ出土



☆（11）→十腰内Ⅰ式土器

☆（14）→中期・型式名不明

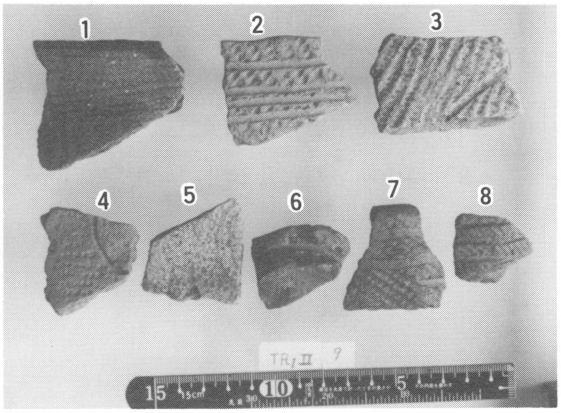
☆（13・15・17・18）→大木 9 式土器

☆（12・16）→大木系土器

〔土器〕

A・P・L 4

① T・R 1 Ⅱ出土

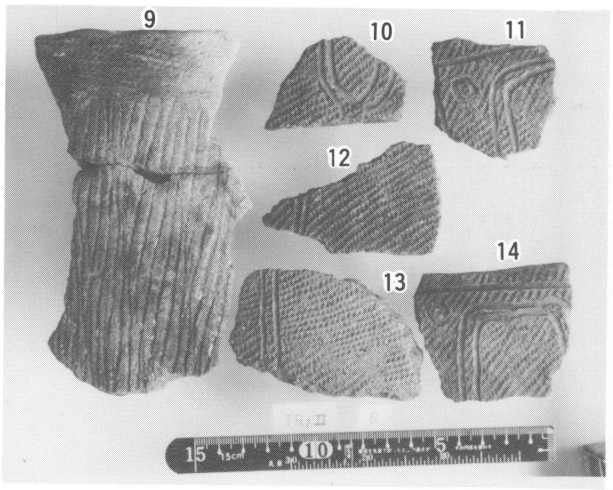


☆（1）→円筒下層 d 1 式土器

☆（2・3・4・6・7・8）
→大木系土器

☆（5）→十腰内Ⅰ式土器

② T・R 1 Ⅱ出土

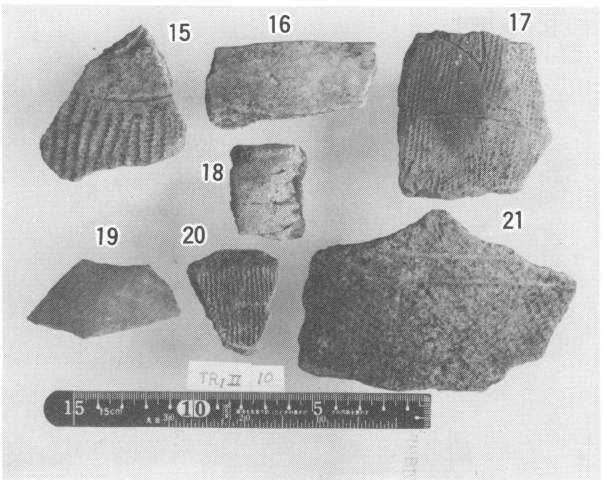


☆（9）　→円筒下層 d 1 式土器

☆（10）　→大木 8 b 式比定土器

☆（11～14）→大木10式比定土器

③ T・R 1 Ⅱ出土



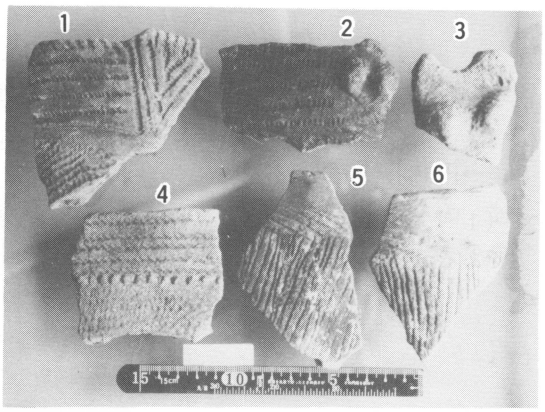
☆（20）　→円筒下層式土器

☆（19）　→須恵器（坏形）

☆（15～18・21）→大木系土器

〔土器〕

① T・R 2 Ⅱ出土

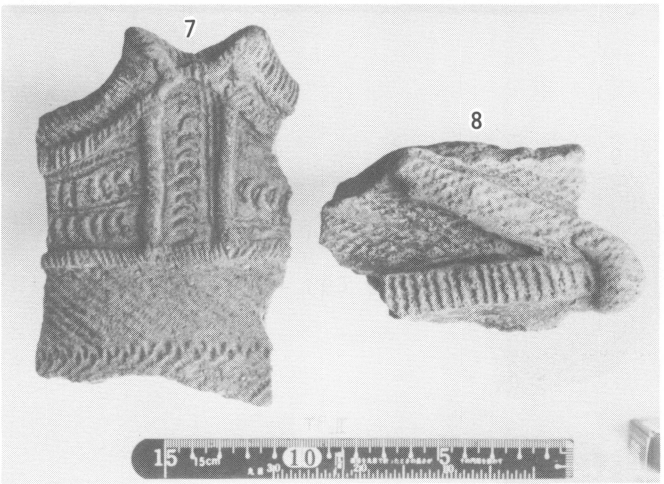


☆（1・2・4）→円筒上層 a 式土器

☆（3）　→後期？

☆（5・6）　→大木系土器

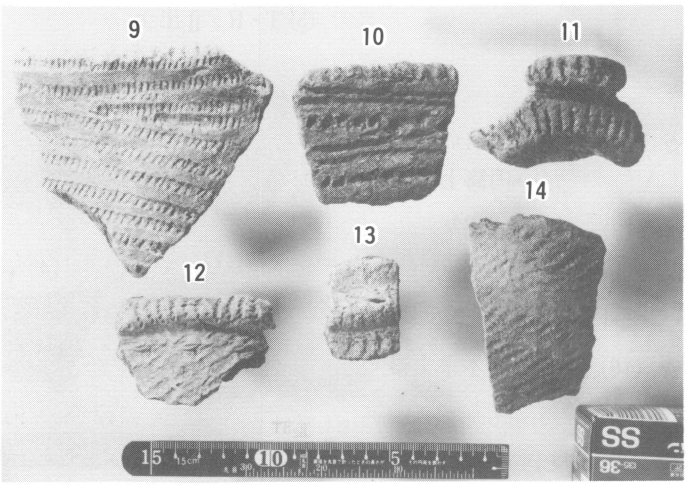
② T・R 2 Ⅱ出土



☆（7）→円筒上層 b 式土器

☆（8）→円筒上層 a 式土器

③ T・R 2 Ⅱ出土



☆（9）
→円筒下層 d 2 式土器

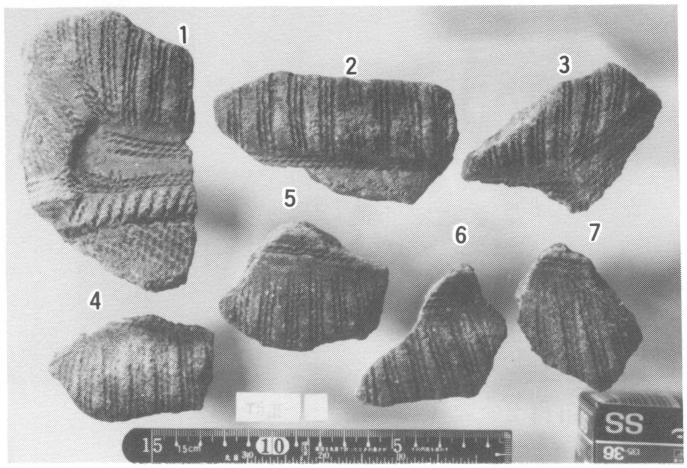
☆（10・11・12）
→円筒上層 a 式土器

☆（13）
→円筒上層 b 式土器

☆（14）→中期？

〔土器〕

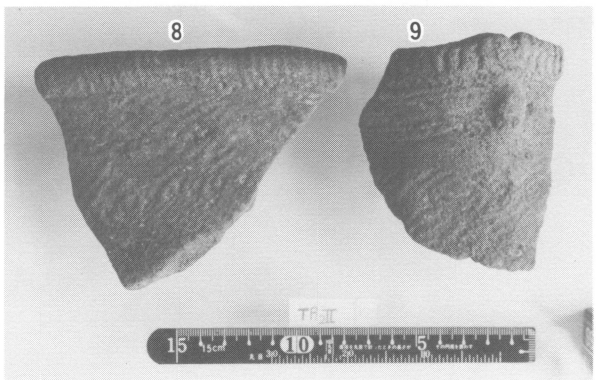
①T・R 2 Ⅱ出土



☆（1～7）
→円筒上層 a 式土器

※（1～7）は、同一個体である。

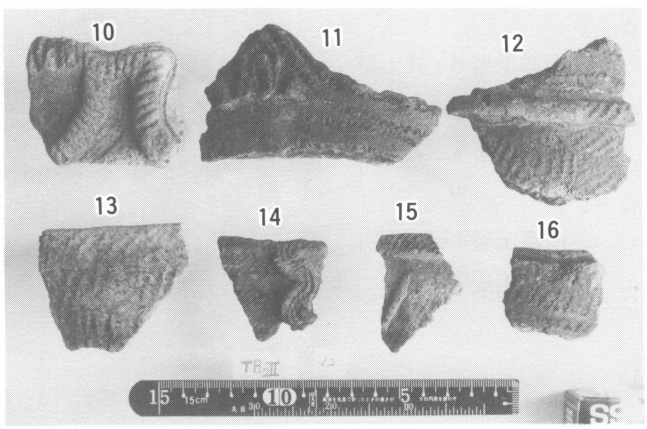
②T・R 2 Ⅱ出土



☆（8）→円筒上層 c 式土器

☆（9）→円筒上層 a 式土器

③T・R 2 Ⅱ出土



☆（10・11・12・14）
→円筒上層 a 式

☆（13）　→後期？

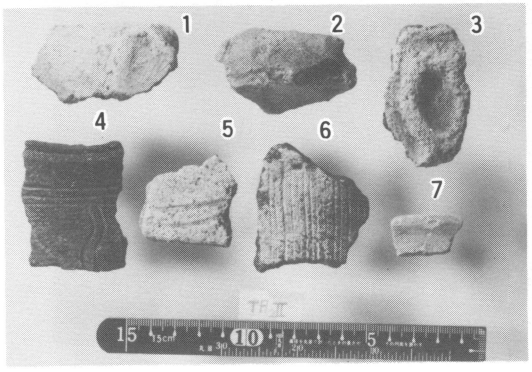
☆（15）
→円筒上層 d 1 式土器

☆（16）　→大木系土器

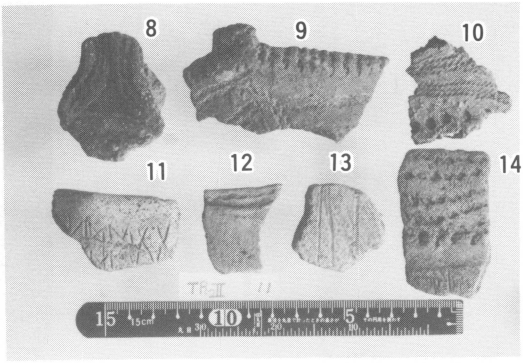
〔土器〕

A・P・L 7

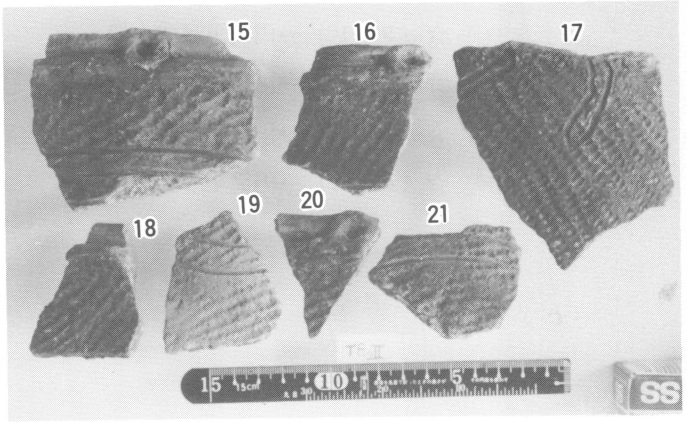
① T・R 2 Ⅱ出土



② T・R 2 Ⅱ出土



③ T・R 2 Ⅱ出土



☆（6）　→円筒下層式土器

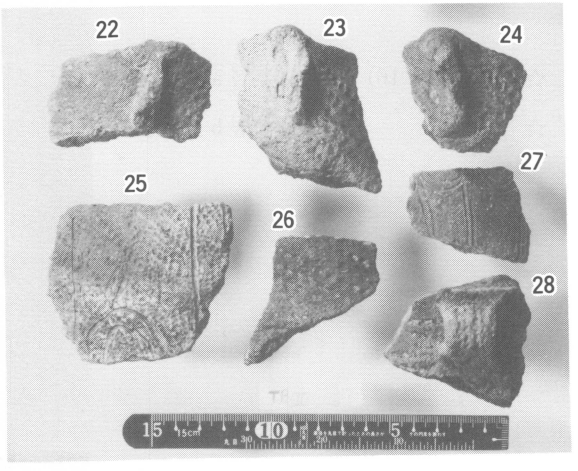
☆（1～3・4・5・7）
　　→大木系土器

☆（10・14）
　→円筒下層式 d 1 式土器

☆（8・9）
　→円筒上層 a 式土器

☆（11・12・13）
　→大木系土器

④ T・R 2 Ⅱ出土



☆（15～21）→大木系土器

☆（28）　　→円筒上層 a 式土器

☆（22～24）→後期

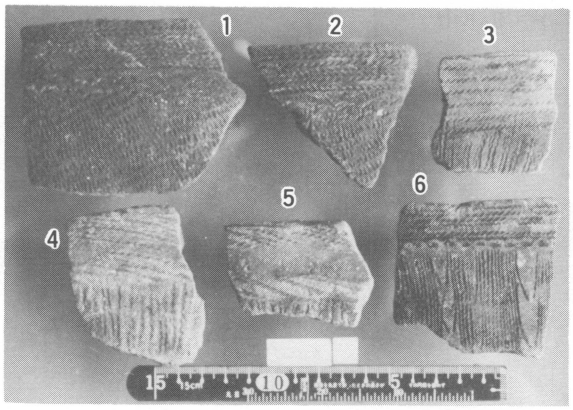
☆（25～27）→大木系土器

〔土器〕

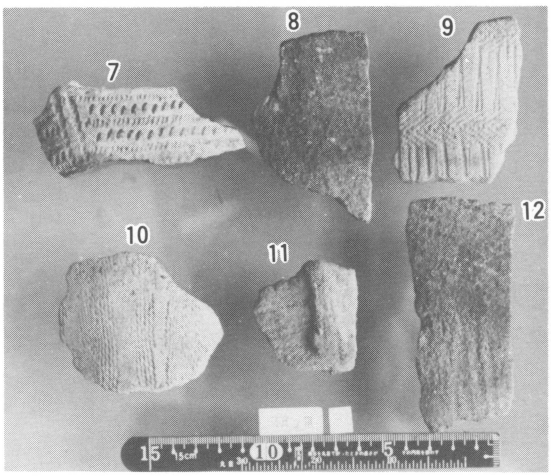
A・P・L 8

① T・R 2 Ⅲ出土

☆（1～6）→円筒下層 d 1式土器



② T・R 2 Ⅲ出土



☆（9・10）→円筒下層式土器

☆（11）→円筒上層 a 式土器

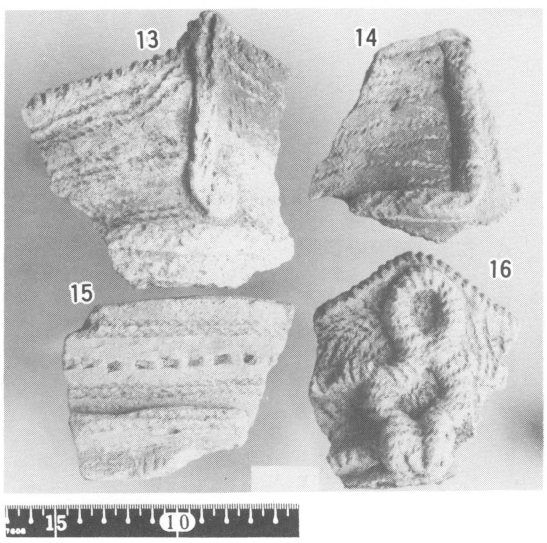
☆（7）→円筒上層 b 式土器

☆（8・12）→円筒上層式土器

③ T・R 2 Ⅲ出土

☆（13・14・16）→円筒上層 a 式土器

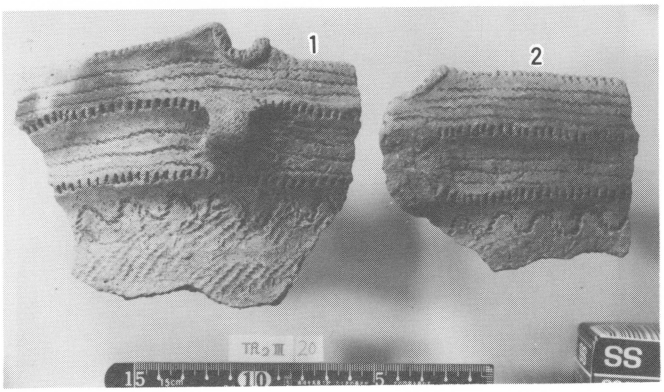
☆（15）→円筒上層 b 式土器



〔土器〕

A・P・L 9

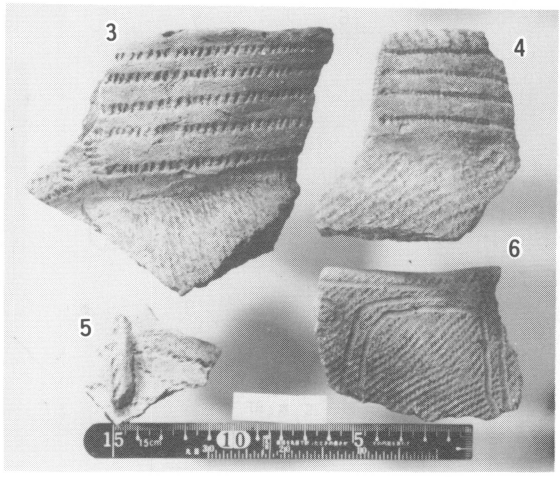
① T・R 2 Ⅲ出土



☆（1・2）
→円筒上層 a 式土器

※（1・2）は、同一個体

② T・R 2 Ⅲ出土

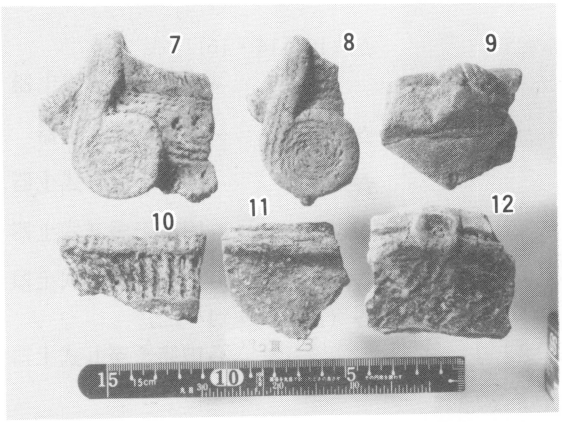


☆（3・4）→円筒上層 a 式土器

☆（5）　→円筒上層 d 式？土器

☆（6）　→大木10式比定土器

③ T・R 2 Ⅲ出土



☆（7・8）　→円筒上層 a 式土器

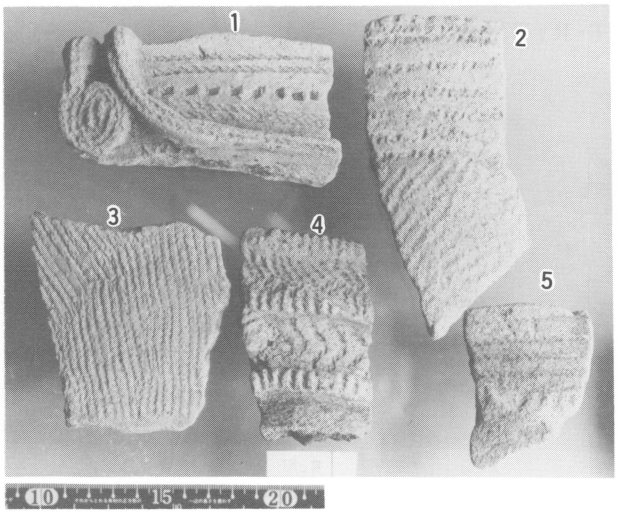
☆（9）　→型式名不明

☆（10・11・12）→大木系土器

〔土器〕

A・P・L10

① T・R 2 Ⅲ出土



☆（5）　→円筒下層 d 1 式土器

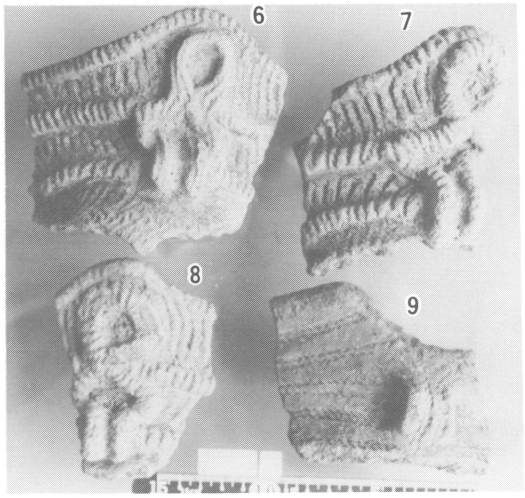
☆（2）　→円筒下層 d 2 式

☆（3・4）→円筒上層 a 式土器

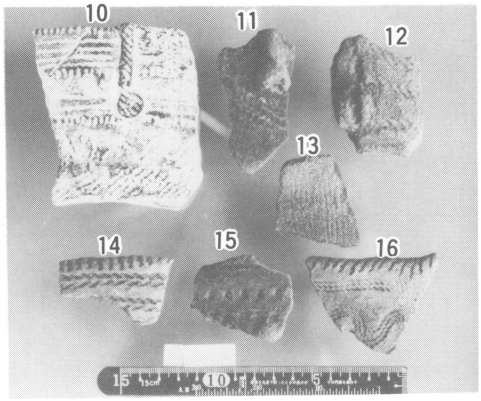
☆（1）　→円筒上層 b 式土器

☆（6～9）→円筒上層 a 式土器

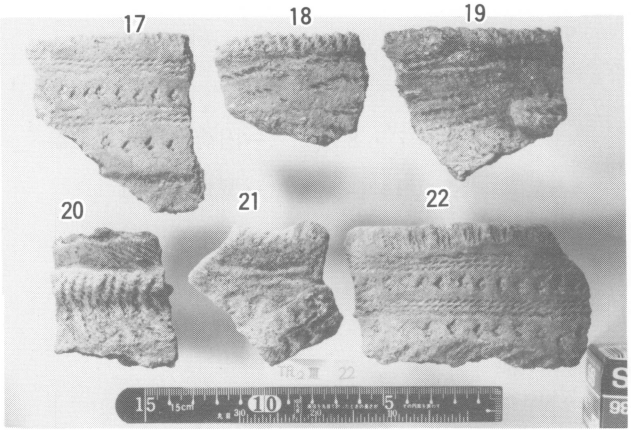
② T・R 3 Ⅱ出土



③ T・R 2 Ⅲ出土



④ T・R 2 Ⅲ出土



☆（10・14・16）
→円筒上層 a 式土器

☆（13）　→円筒下層式土器

☆（15）　→円筒上層 b 式土器

☆（11・12）→円筒上層 d 式土器

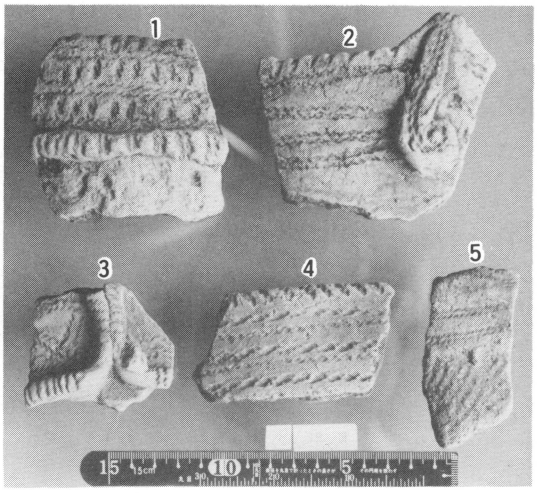
☆（18・19）→円筒上層 a 式土器

☆（17・20・21・22）
→円筒上層 b 式土器

〔土器〕

A・P・L11

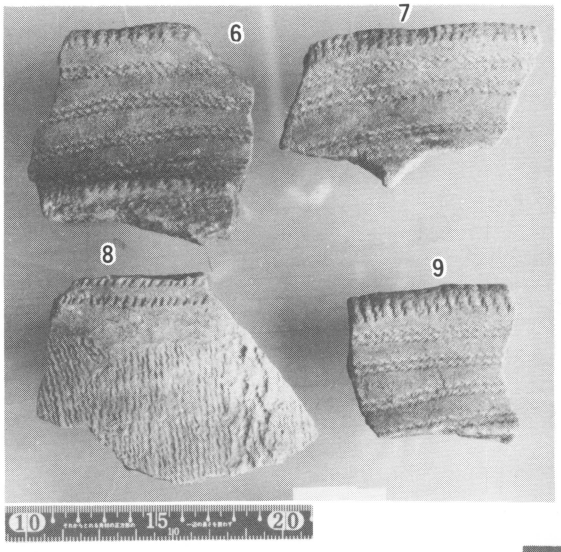
① T・R2 Ⅲ出土



☆（2・3・4・5）
→円筒上層 a 式土器

☆（1）→円筒上層 b 式土器

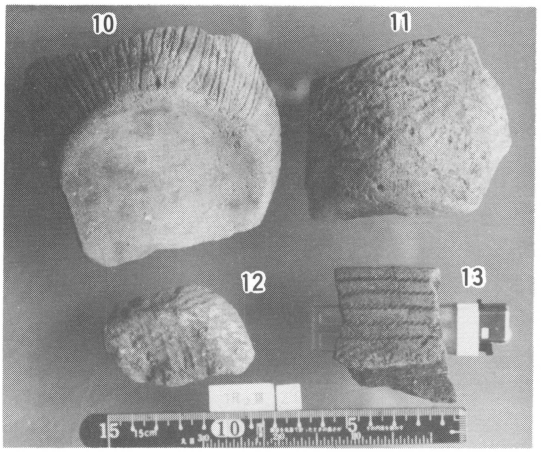
② T・R2 Ⅲ出土



☆（6・7・9）→円筒上層 c 式土器

☆（8）→大木系土器

③ T・R2 Ⅲ出土



☆（10）→土器底部（円筒下層式）

☆（11）→土器底部（円筒上層式）

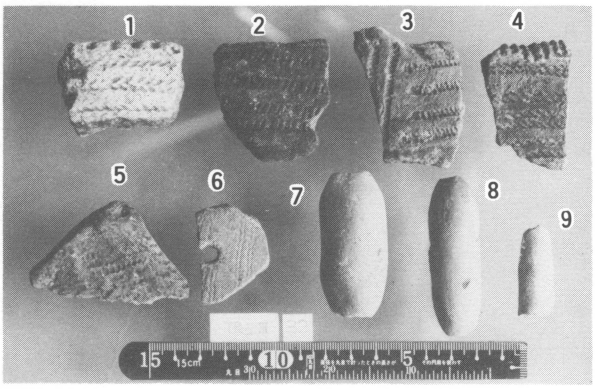
☆（12）→土器底部（十腰内Ⅰ式）

☆（13）→円筒上層 a 式土器

〔土器・円盤状土製品・土錘〕

A・P・L12

①



☆（1～4）←円筒上層a式土器

☆（5）　→大木系または――
―円筒上層式土器

☆（6）　→円盤状土製品

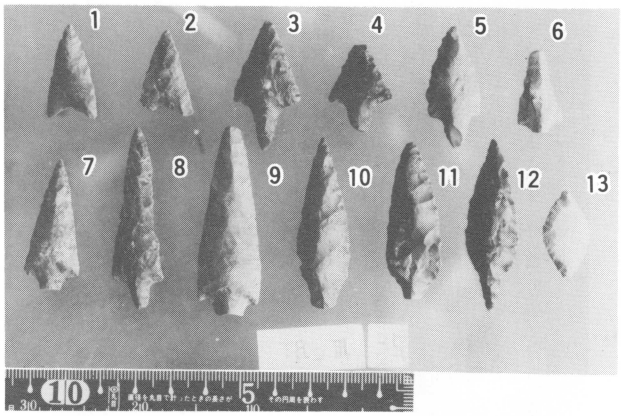
☆（7～9）→土錘

〔石器〕

S・P・L 1

①（石鏃）

①

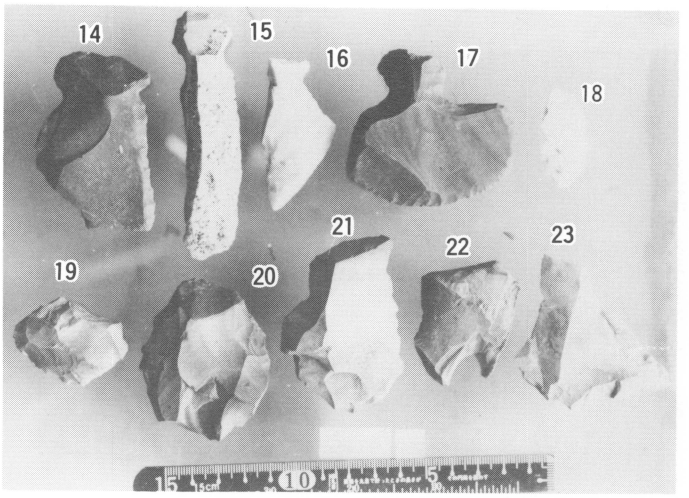


☆（1～13）→T・R 2 Ⅲ出土

②（削器）

☆（14～23）→T・R 2 Ⅲ出土

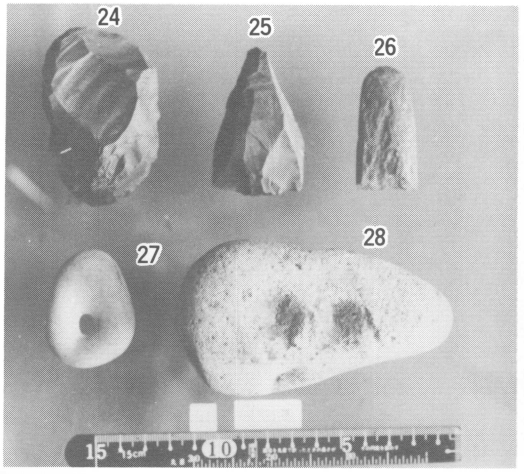
②



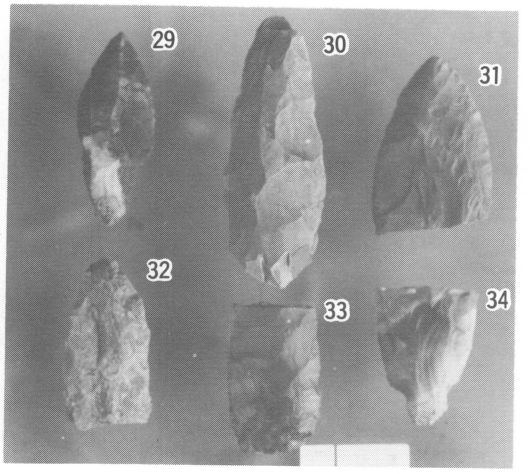
③（掻器・石斧・クボミ石・自然石）

☆（24～28）→T・R 2 Ⅲ出土

③



④（石槍）　☆（29～34）→T・R 2 Ⅲ出土

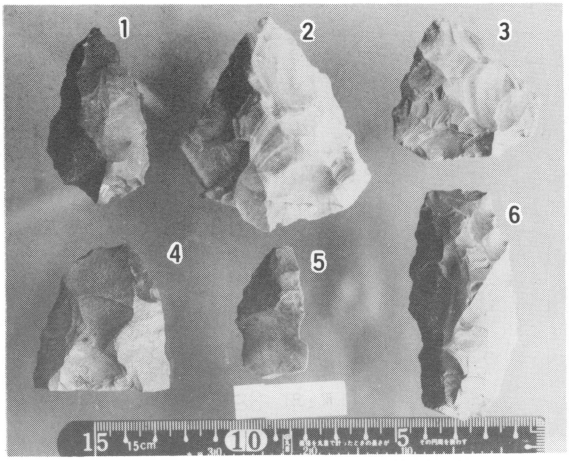


〔石器〕

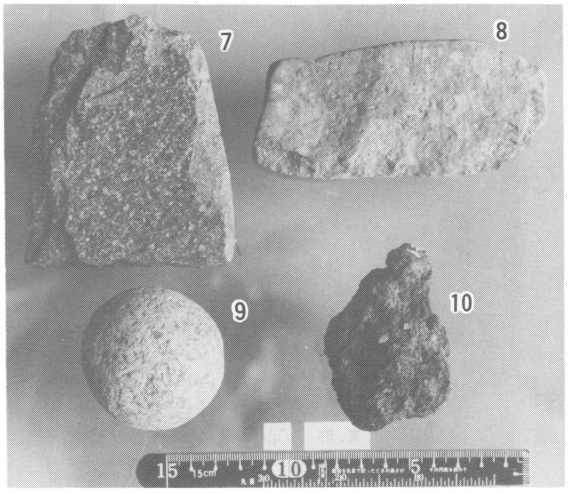
S・P・L2

① 石槍ー不定形

☆（1～6）→T・R2Ⅲ出土

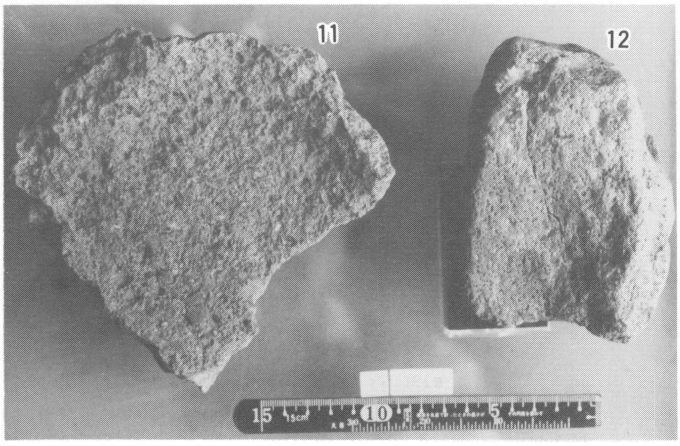


②



②（半円状打製扁平石器・石弾・鉄滓）

③



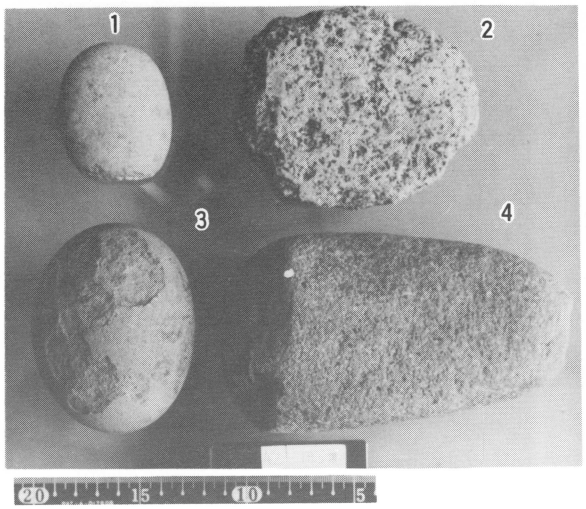
③（石皿）

☆（11・12）→T・R2Ⅲ出土

〔石器〕

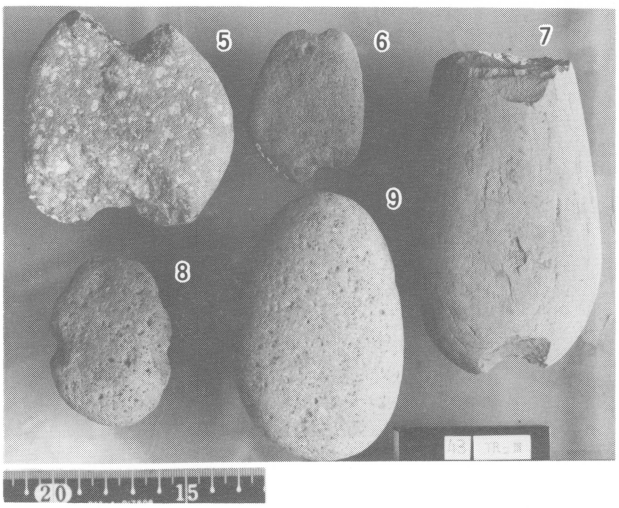
S・P・L3

①（タタキ石）



☆（1～4）→T・R2Ⅲ出土

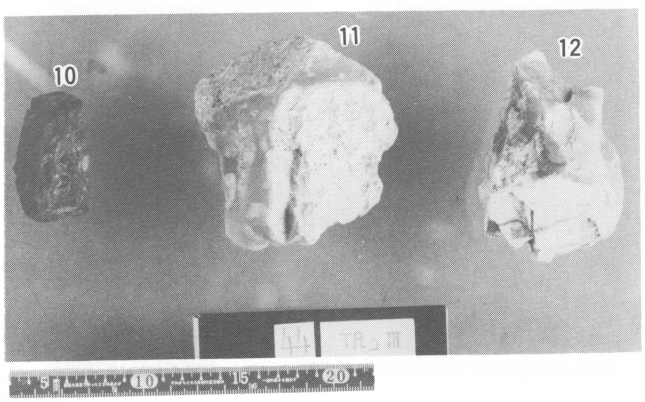
②（石錘）



☆（5～9）

tr2Ⅲ出土

③（自然石）



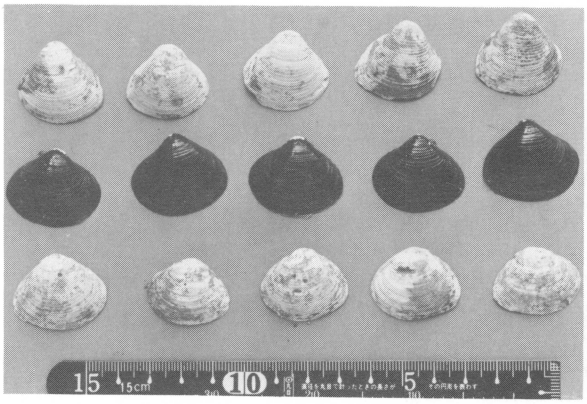
☆（10～12）→T・R2Ⅲ出土

〔出土したヤマトシジミ〕

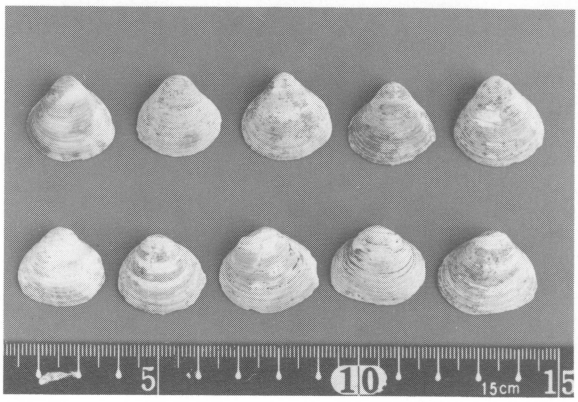
K・P・L1

①

☆現在のもの



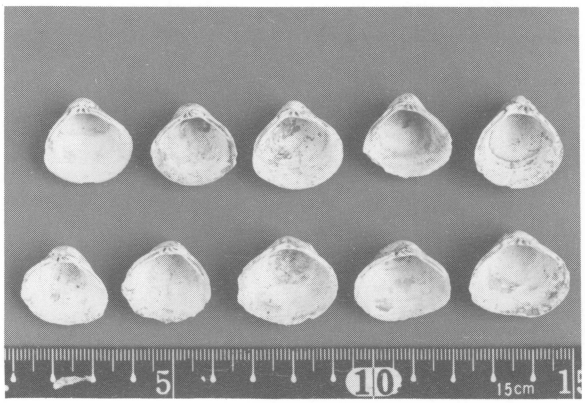
②



☆外面

↕

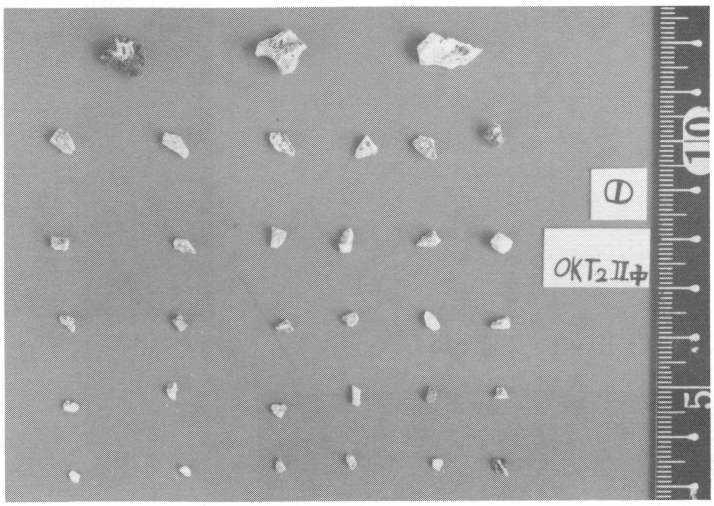
☆内面



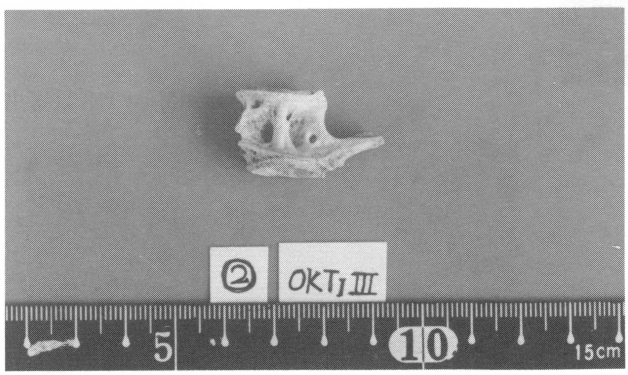
〔骨類〕

b・P・L 1

① O・K・tr 2 Ⅱ出土



② O・K・tr 1 Ⅲ出土



☆（註）
- O・K＝オセドウ貝塚
- tr 1 ＝トレンチ1
- Ⅲ ＝Ⅲ層の意

以下も同様

〔骨角器〕→(ヘアピン型)　　b・P・L2

③　O・K・tr2Ⅲ下出土

③　O・K・tr2Ⅲ下出土

④　O・K・tr2貝層出土

円筒下層d1式土器

④　O・K・tr2貝層出土

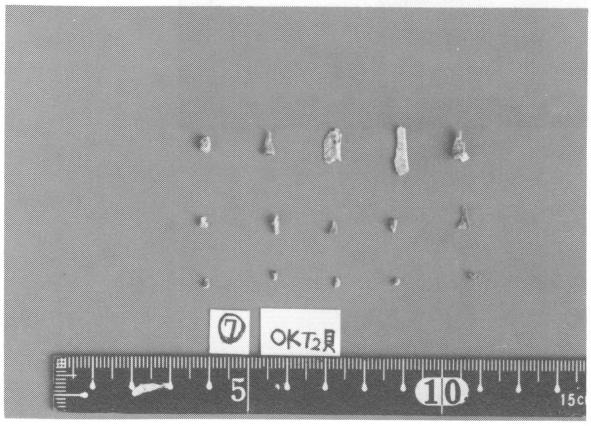
〔骨類〕

b・P・L 3

⑤　O・K・tr2貝層出土

⑥　O・K・tr2貝層出土

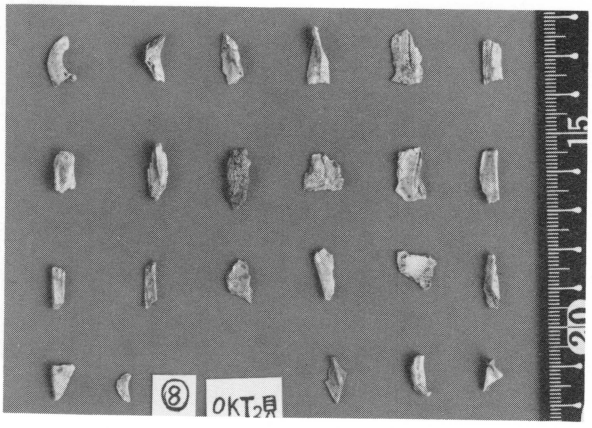
⑦　O・K・tr2貝層出土



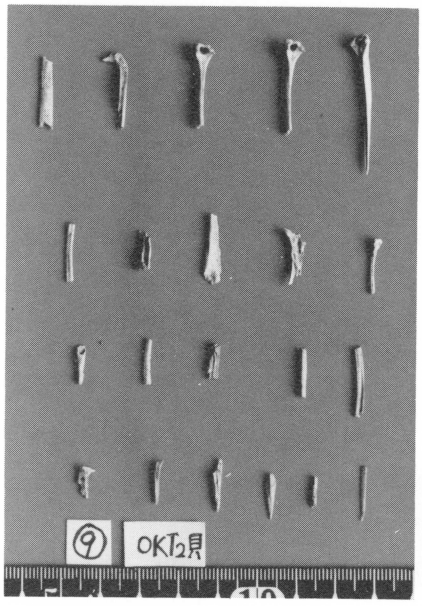
〔骨類〕

b・P・L4

⑧　O・K・tr2貝層出土



⑨　O・K・tr2貝層出土



←糸を通す穴が見える。

☆縫い針状骨類

市浦村埋蔵文化財発掘報告書

平成元年度・平成２年度分

オセドウ貝塚（第１・２次）発掘概報

• 発行年月日　平成４年３月30日

• 発　行　者　青森県・市浦村教育委員会

代表 教育長　木　村　義　光

• 住　　所　青森県北津軽郡市浦村大字相内字相内○番地

• 印　　刷　西　北　印　刷